

会 議 報 告 書

会議名	令和6年度 第1回三島市社会教育委員会議	
日 時	令和6年5月10日(金) 午後3時から5時15分まで	
場 所	三島市民生涯学習センター 3階 講義室	
出席者	社会教育委員	永倉委員長、足立委員、本持委員、渡邊委員、高橋委員、小藪委員、 籾山委員、大澤委員、飯塚委員、朝日委員、齋藤委員、山本委員、 井口委員、野田委員
	事務局	小塚教育長、鈴木教育推進部長、沼上生涯学習課長、渡邊図書館長、 及川文化財課長、加藤文化のまちづくり課長、鈴木教育推進部主任、 星谷生涯学習係長、稲木女性青少年係長、堤主事、前田事務員
傍聴人	なし(公開会議、傍聴人定員2名)	
項 目	趣 旨	
1 開 会		
2 挨 拶	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会 教育長より挨拶 ●社会教育委員 委員長より挨拶 	
3 職員紹介	教育推進部長より職員紹介	
4 議 事 (報告・協議)	<p>(1) 令和6年度 主要事業・予算概要について</p> <p>各課長より資料に沿って説明</p> <p>(質問)</p> <p>三島市PTA連絡協議会の事務局の立場より2点共有させていただく。</p> <p>1点目は地域における社会教育団体としての課題だが、PTAでは任意性を明らかにしないまま、これまでと同様に任命されていることに疑問をもつ保護者が増えてきている。任意の紙を配る、やりたい人だけがやればよいという任意の取り方が不適切ではないか。PTA活動の大切さを理解いただけるような団体を目指しているところであるが、多様な価値観の方が地域に住み始めているため、これまで地域活動を行ってきた方たちの努力だけでは対応できなくなっている。また、高齢化で団体が維持できなくなっているとも聞いており、別の視点から新たな絆を保ち続けるための支援を全市で考えていく必要があるのではないかと。</p> <p>2点目は地域における本屋の衰退についてである。可能な限り地元で買える本は地元の本屋で買おうと声掛けをしているところである。図書館等本を扱う方々</p>	
委員		

(続き)	と一緒に「地元の本屋で本を買おう」といった活動を行い、盛り上げていけたらと思う。
委員	企業の協力を仰いでいる雑誌が増えていると思うが、現在どのくらいの冊数があるのか。
図書館長	次回第2回会議の際にご回答させていただく。
委員	他に企業の協力を仰いでいる図書館事業はあるか。
図書館長	企業と連携しているものは雑誌関係が多く、広報みしま等で引続き啓発を進めていく。また、絵本のまち三島推進事業の今年度の取組として企業と連携し、前進していけたらと考えている。
委員	多様なニーズに向けて献本を募ることもできるのではないかと。資料収集も大変な作業であるので、ご協力いただけたら有難い。 また、発明クラブについての進捗状況について欲しい。
委員	元委員に確認する。
委員	予算額について会議で説明する必要があるのか。意見が反映される訳ではなく無意味ではないか。精査してほしい。
委員	予算額について、図書館担当事業については人件費が含まれていないが、生涯学習課担当事業である児童センター事業については人件費が91%であると説明があった。各課により人件費の取扱いが異なっており、実際の事業にどれだけ要しているのか分からない。
図書館長	先程申し上げた数字は図書購入に関わる費用である。人件費を除いた事業の中で図書購入にかかる費用が1番多く占めていると説明すべきであった。
委員	児童センターの職員は非正規職員であり、その職員がいなければ成り立たないといった意味合いで計上している、そのような認識で合っているか。
生涯学習課長	認識のとおりである。
委員	事業自体に人が関わっている場合には人件費が含まれ、正規職員が扱う場合には人件費は含まれない。数字を見る際は事業に関しての知識があると良いかと思う。
委員	文化振興課から文化のまちづくり課に課名変更したのはなぜか。また、課名変更に伴い新しい事業はあるか。
文化のまちづくり課長	芸術・文化はもとより、伝統芸能・伝統文化など市民活動が三島市内においてさらに活発になることは、人々の感性を豊かにし、創造性を育み、表現力を高め、潤いのある暮らしなどの実現に繋がると共に、品格のあるまちづくりの実現のためにも大変重要であると考えている。品格というのは、文化・芸術を指し、活動を推進することは素晴らしい魅力あふれるまちづくりには欠かせないものと考えており、より一層魅力あるまちづくりを推進するため課名が変わり、今年度より「絵本のまち三島推進事業」が加わった。
委員	地域学校協働本部の一員として携わっているが、学校のPTA役員の担い手が希薄になっており、解散した地区もあると聞いている。また自治会自体も役員の担い手不足により崩壊しつつある。市からの依頼過多も原因ではないか。少子化の中で、学校教育に対する取組の危機感はどのように考えているか。

<p>教育推進部長</p>	<p>少子高齢化もあり、どの団体も担い手不足は喫緊の課題となっている。今後児童数が減っていく中で、今の形態を維持していけるのか、同時に地域との連携はどのようにしていくのかなどが、教育委員会の重要な課題となっている。市としても抜本的な対策は検討段階であるが、これからの少子化を見据えて、学校や社会教育施設の有り方について大至急策を講じていかなければならないと感じているところである。</p>
<p>委員</p>	<p>保護者の活動の理解度が低いと感じている。協働本部を担ってきた方々が10年経ち一新していくにあたり、担い手不足により解散してしまうのではないかと危惧している。学校に行くことができない児童・生徒に対しては、オンラインでの授業への参加で出席となる時代である。学校の有り方も変わってくると思うが、学校は多くの地域で避難所となっており、防災の面からみても地域の協力性がなければ防災力にもつながらないのではないかと考える。</p>
<p>(2) 令和5年度 第4・四半期の経過報告及び 令和6年度 第1・四半期の予定報告</p> <p>各課長より資料に沿って説明</p>	
<p>(質問)</p>	
<p>委員</p>	<p>図書館と文化のまちづくり課の「絵本のまち三島推進事業」のすみ分けはどうなっているのか。</p>
<p>文化のまちづくり課長</p>	<p>5月5日に行われた春の大通り商店街まつりについては、図書館では青空図書館や読み聞かせをおこなった。文化のまちづくり課ではロゴマークの募集等を行った。今後も連携していく所存である。</p>
<p>委員</p>	<p>今後は文化のまちづくり課で行っていくのか。</p>
<p>文化のまちづくり課長</p>	<p>図書館と一緒に、庁内各課と連携をしながら進めていく。</p>
<p>委員</p>	<p>近隣自治体でも同様に「絵本のまち」を掲げイベントを実施しているようだが、連携はしているのか。</p>
<p>文化のまちづくり課長</p>	<p>近隣自治体でのイベントを見学したことはあったが、現状、連携はしていない。情報を共有し、まずは三島市として固めていきたいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>宮西先生は三島在住の作家なので、ぜひ大々的に盛り上げていただきたい。</p>
<p>(3) 委員報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2月 1日 (木) 令和5年度第2回三島市青少年問題協議会 委員より説明 ・ 2月 9日 (金) 令和5年度第2回三島市郷土資料館運営協議会 委員より説明 ・ 2月 20日 (火) 令和5年度第2回青少年相談室運営懇話会 委員より説明 	

	<ul style="list-style-type: none">・ 3月 7日 (木) 令和5年度第2回三島市民生涯学習センター運営委員会委員より説明・ 4月 20日 (土) 三島市少年少女発明クラブ実行委員会生涯学習課長より説明
5 社会教育委員 実践発表	<ul style="list-style-type: none">(1) 足立委員より実践発表(2) 本持委員より実践発表
6 その他	<ul style="list-style-type: none">●市政功労者表彰について●空調設備修繕工事の実施に伴う生涯学習センター閉館について
7 閉会	